




# Dell EMC PowerEdge T340

## BIOS および UEFI リファレンス ガイド

## メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

<b>章 1: プレオペレーティング システム管理アプリケーション</b> .....	<b>4</b>
プレオペレーティング システム アプリケーションを管理するためのオプション.....	4
システム セットアップ.....	4
セットアップユーティリティの表示.....	4
セットアップユーティリティ 詳細.....	5
システム BIOS.....	5
iDRAC 設定ユーティリティー.....	22
デバイス設定.....	22
Dell Lifecycle Controller.....	23
組み込み型システム管理.....	23
ブートマネージャー.....	23
ブートマネージャの表示.....	23
ブートマネージャーのメインメニュー.....	23
ワンショット UEFI 起動メニュー.....	24
システムユーティリティ.....	24
PXE 起動.....	24

# プレオペレーティング システム管理アプリケーション

システムのファームウェアを使用して、オペレーティング システムを起動せずにシステムの基本的な設定や機能を管理することができます。

トピック：

- [プレオペレーティング システム アプリケーションを管理するためのオプション](#)
- [システム セットアップ](#)
- [Dell Lifecycle Controller](#)
- [ブートマネージャー](#)
- [PXE 起動](#)

## プレオペレーティング システム アプリケーションを管理するためのオプション

お使いのシステムには、プレオペレーティング システム アプリケーションを管理するための次のオプションがあります。

- システム セットアップ
- Dell Lifecycle Controller
- ブートマネージャー
- PXE ( Preboot Execution Environment )

## システム セットアップ

システム セットアップ画面を使用して、お使いのシステムの BIOS 設定、iDRAC 設定、デバイス設定を構成できます。

**①メモ:** デフォルトでは、選択したフィールドのヘルプ テキストはグラフィカル ブラウザー内に表示されます。テキスト ブラウザー内でヘルプ テキストを表示するには、F1 を押してください。

次のいずれかで、セットアップ ユーティリティにアクセスできます

- 標準グラフィカルブラウザ — このブラウザはデフォルトで有効になっています。
- テキストブラウザ — コンソールリダイレクトの使用によって有効になります。

## セットアップユーティリティの表示

**System Setup** ( セットアップユーティリティ ) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**①メモ:** F2 を押す前にオペレーティング システムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

# セットアップユーティリティ詳細

**System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面の詳細は次のとおりです。

オプション	説明
システム BIOS	BIOS を設定できます。
iDRAC 設定	iDRAC を設定できます。  iDRAC 設定ユーティリティは、UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) を使用することで iDRAC パラメーターをセットアップして設定するためのインターフェースです。iDRAC 設定ユーティリティを使用することで、さまざまな iDRAC パラメーターを有効または無効にすることができます。このユーティリティの詳細については、の『 <i>Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド</i> 』を参照してください。
デバイス設定	デバイスを設定できます。

## システム BIOS

**System BIOS** 画面を使って、起動順序、システムパスワード、セットアップパスワードなどの特定の機能を編集し、SATA モードを設定し、USB ポートの有効/無効を切り替えることが可能です。

## システム BIOS の表示

**System BIOS** (システム BIOS) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、**システム BIOS** をクリックします。

## システム BIOS 設定の詳細

このタスクについて

**System BIOS Settings** (システム BIOS 設定) 画面の詳細は次の通りです。

オプション	説明
システム情報	システムモデル名、BIOS バージョン、サービスタグといったシステムに関する情報を指定します。
メモリ設定	取り付けられているメモリに関連する情報とオプションを指定します。
プロセッサ設定	速度、キャッシュサイズなど、プロセッサに関連する情報とオプションを指定します。
SATA 設定	内蔵 SATA コントローラとポートの有効/無効を切り替えるオプションを指定します。
起動設定	起動モード (BIOS または UEFI) を指定するオプションが表示されます。UEFI と BIOS の起動設定を変更することができます。
ネットワーク設定	UEFI ネットワーク設定および起動プロトコルを管理するオプションを指定します。 レガシーネットワークの設定は、管理下から <b>デバイス設定</b> メニューがあります。
内蔵デバイス	内蔵デバイスコントローラとポートの管理、および関連する機能とオプションの指定を行うオプションを指定します。

オプション	説明
シリアル通信	シリアルポートの管理、および関連する機能とオプションの指定を行うオプションを指定します。
システムプロファイル設定	プロセッサの電力管理設定、メモリ周波数などを変更するオプションを指定します。
システムセキュリティ	システムパスワード、セットアップパスワード、Trusted Platform Module (TPM) セキュリティなどのシステムセキュリティ設定を行うオプションを指定します。システムの電源ボタンやUEFI ボタンも管理します。システムの電源ボタンを押します。
冗長 OS 制御	このフィールドでは、冗長 OS 制御用の冗長 OS 情報を設定します。
その他の設定	システムの日時などを変更するオプションを指定します。

## システム情報

システム情報画面を使用して、サービス タグ、システム モデル名、BIOS バージョンなどのシステムのプロパティを表示できます。

## システム情報の表示

**System Information** (システム情報) 画面を表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、**システム BIOS** をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**System Information** (システム情報) をクリックします。

## システム情報の詳細

このタスクについて

**System Information** (システム情報画面) の詳細は、次の通りです。

オプション	説明
システムモデル名	システム モデル名を指定します。
システム BIOS バージョン	システムにインストールされている BIOS バージョンを指定します。
システム管理エンジンバージョン	管理エンジンファームウェアの現在のバージョンを指定します。
<b>System Service Tag</b> (システムサービスタグ)	システムのサービス タグを指定します。
システム製造元	システム メーカーの名前を指定します。
システム製造元の連絡先情報	システム メーカーの連絡先情報を指定します。
システム CPLD バージョン	システム コンプレックス プログラマブル ロジック デバイス (CPLD) ファームウェアの現在のバージョンを指定します。

## オプション 説明

**UEFI 準拠バージョン** システム ファームウェアの UEFI 準拠レベルを指定します。

## メモリー設定

メモリー設定画面を使用して、メモリーの設定をすべて表示し、システムのメモリーのテストやノードのインターリーピングなど、特定のメモリー機能を有効または無効にできます。

## メモリー設定の表示

Memory Settings (メモリー設定) 画面を表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、システム BIOS をクリックします。
4. System BIOS (システム BIOS) 画面で、Memory Settings (メモリー設定) をクリックします。

## メモリー設定の詳細

### このタスクについて

メモリー設定画面の詳細は、次のとおりです。

## オプション 説明

**システムメモリーのサイズ** システム内のメモリー サイズを指定します。

**システムメモリーのタイプ** システムに取り付けられているメモリーのタイプを指定します。

**システムメモリー速度** システムメモリーの速度を指定します。

**システムメモリー電圧** システムメモリーの電圧を指定します。

**ビデオメモリー** ビデオメモリーの容量を指定します。

**システムメモリーテスト** システム起動時にシステムメモリーテストを実行するかどうかを指定します。オプションは**有効**および**無効**です。このオプションは、デフォルトで**無効**に設定されています。

**メモリー動作モード** メモリーの動作モードを指定します。デフォルトでは、このオプションは**最適化モード**に設定されています。  
**メモ:** メモリー動作モードオプションには、お使いのシステムのメモリー構成に基づいて、異なるデフォルトおよび利用可能オプションがあります。

**メモリー動作モードの現在の状態** メモリーの動作モードの現在の状態を示します。

## プロセッサ設定

**Processor Setting** (プロセッサ設定) 画面を使用して、プロセッサ設定を表示し、仮想化テクノロジー、ハードウェアプリフェッチャ、論理プロセッサアイドルリングなどの特定の機能を実行できます。

## プロセッサ設定の表示

**Processor Settings** 画面を表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、システム BIOS をクリックします。
4. **System BIOS** 画面で **Processor Settings** をクリックします。

## プロセッサ設定の詳細

このタスクについて

プロセッサ設定画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
<b>Logical Processor</b>	論理プロセッサを有効または無効にして、論理プロセッサの数を表示します。このオプションが <b>有効</b> に設定されている場合、BIOS にはすべての論理プロセッサが表示されます。このオプションが <b>Disabled</b> に設定されている場合、BIOS にはコアにつき 1 個の論理プロセッサのみが表示されます。このオプションは、デフォルトで <b>有効</b> に設定されています。
<b>Virtualization Technology</b>	プロセッサの仮想化テクノロジーを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで <b>有効</b> に設定されています。
<b>Adjacent Cache Line Prefetch</b>	シーケンシャル メモリー アクセスを頻繁に使用する必要があるアプリケーション向けにシステムを最適化します。このオプションは、デフォルトで <b>有効</b> に設定されています。ランダム メモリー アクセスの頻度が高いアプリケーションを使用する場合は、このオプションを無効にできます。
<b>Hardware Prefetcher</b>	ハードウェア プリフェッチャを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで <b>有効</b> に設定されています。
<b>Logical Processor Idling</b>	システムのエネルギー効率性を改善できます。オペレーティングシステムのコア パーキング アルゴリズムを使用して、システムの論理プロセッサの一部を保留し、対応するプロセッサ コアを順番に低電力アイドル状態に遷移できます。このオプションは、オペレーティングシステムがサポートする場合のみ有効にすることができます。このオプションは、デフォルトで <b>無効</b> に設定されています。
<b>x2APIC Mode</b>	x2APIC モードを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで <b>無効</b> に設定されています。
<b>Number of Cores per Processor</b>	プロセッサごとの有効なコアの数を制御します。このオプションは、デフォルトで <b>All</b> に設定されています。
<b>Processor Core Speed</b>	プロセッサの最大コア周波数を指定します。
<b>Processor 1</b>	システムに取り付けられている各プロセッサについて、次の設定が表示されます。
<b>オプション</b>	<b>説明</b>
<b>Family-Model-Stepping</b>	インテルによって定義されているとおりにプロセッサのファミリー、モデル、およびステッピングを指定します。



オプション	説明
オプション	説明
ブランド	ブランド名を指定します。
Level 2 Cache	L2 キャッシュの合計を指定します。
Level 3 Cache	L3 キャッシュの合計を指定します。
Number of Cores	プロセッサごとのコア数を指定します。
Microcode	マイクロコードを指定します。

## SATA 設定

SATA 設定画面を使用して、SATA デバイスの SATA 設定を表示し、お使いのシステムで SATA を有効にすることができます。

### SATA 設定の表示

SATA Settings (SATA 設定) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

#### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、システム BIOS をクリックします。
4. System BIOS (システム BIOS) 画面で、SATA Settings (SATA 設定) をクリックします。

### SATA 設定の詳細

#### このタスクについて

SATA 設定画面の詳細は、次の通りです。

オプション	説明
内蔵 SATA	内蔵 SATA オプションを <b>Off</b> 、 <b>AHCI</b> 、または <b>RAID</b> のいずれかのモードに設定できます。このオプションは、デフォルトで <b>AHCI Mode (AHCI モード)</b> に設定されています。
セキュリティフリーズロック	POST 中に組み込み SATA ドライブにセキュリティフリーズロックコマンドを送信します。このオプションは、AHCI Mode にのみ適用されます。このオプションは、デフォルトで <b>Enabled</b> に設定されています。
書き込みキャッシュ	POST 中に組み込み SATA ドライブの コマンドを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで <b>無効</b> に設定されています。
ポート n	選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 <b>AHCI モードまたは RAID モードの場合</b> 、BIOS サポートは常に有効です。
オプション	説明
モデル	選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。
ドライブタイプ	SATA ポートに接続されているドライブのタイプを指定します。
容量	ドライブの合計容量を指定します。オプティカルドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

## 起動設定

起動設定画面を使用して、起動モードを **BIOS** または **UEFI** のいずれかに設定することができます。起動順序を指定することも可能です。

- **UEFI** : Unified Extensible Firmware Interface(uefi) は、オペレーティングシステムとプラットフォームファームウェア間に新しいインターフェース。このインターフェースは、プラットフォーム関連の情報を含んだデータテーブル群と、オペレーティングシステムとそのローダーが使用できるブートおよびランタイム サービス コールから構成されています。起動モードが **UEFI** に設定されている場合は、次のメリットが得られます。
  - 2TB を超えるドライブパーティションをサポートします。
  - 強化されたセキュリティ (例えば、UEFI セキュア ブート) します。
  - 高速起動時間。
- **BIOS**: では、**BIOS 起動モード** は、レガシー起動モードがあります。後方互換性がサポートされています。

## 起動設定の表示

**Boot Settings** (起動設定) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。


3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、システム **BIOS** をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Boot Settings** (起動設定) をクリックします。

## 起動設定の詳細

このタスクについて


**Boot Settings** (起動設定) 画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
起動モード	<p>システムの起動モードを設定できます。</p> <p><b>注意:</b> OS インストール時の起動モードが異なる場合、起動モードを切り替えるとシステムが起動しなくなることがあります。</p> <p>オペレーティングシステムが UEFI をサポートしている場合は、このオプションを <b>UEFI</b> に設定できます。このフィールドを <b>BIOS</b> に設定すると、UEFI 非対応のオペレーティングシステムとの互換性が有効になります。このオプションはデフォルトで <b>UEFI</b> に設定されています。</p> <p><b>メモ:</b> このフィールドを <b>UEFI</b> に設定すると、<b>BIOS Boot Settings</b> (BIOS 起動設定) メニューが無効になります。</p>
起動順序再試行	<p><b>Boot Sequence Retry</b> (起動順序再試行) 機能を有効または無効にします。このフィールドが <b>Enabled</b> (有効) に設定されていて、システムが起動に失敗した場合、システムは 30 秒後に起動を再試行します。このオプションは、デフォルトで <b>Enabled</b> (有効) に設定されています。</p>
Hard-Disk Failover	<p>ドライブ障害発生時に起動するドライブを指定します。では、デバイスが選択されている <b>ハードディスクドライブシーケンス</b> で、<b>起動オプションを設定します</b>。このオプションを <b>Disabled</b> (無効) に設定すると、リストの最初のドライブだけが起動を試行されます。このオプションを <b>Enabled</b> (有効) に設定すると、すべてのドライブが、<b>Hard-Disk Drive Sequence</b> (ハードディスクドライブのシーケンス) で選択された順序で起動を試行されます。このオプションは、UEFI 起動モードでは使用できません。このオプションは、デフォルトで <b>Disabled</b> (無効) に設定されています。</p>

オプション	説明
汎用 USB 起動	汎用 USB 起動を有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで <b>Disabled</b> (無効) に設定されています。
ハードディスクドライブのブレースホルダ	ハードディスクドライブのブレースホルダを有効または無効にします。
UEFI 起動設定	UEFI 起動オプションを有効または無効にします。 起動オプションを含めるには <b>IPv4 PXE</b> および <b>IPv6 PXE</b> を押します。このオプションは、デフォルトで <b>Last</b> (前回) に設定されています。  <b>メモ:</b> このオプションは、起動モードが UEFI の場合にのみ有効になります。
UEFI Boot Sequence	起動デバイスの順序を変更できます。
Boot Options Enable/Disable	起動デバイスの有効/無効を選択できます。

## ネットワーク設定

ネットワーク設定画面を使用して、UEFI PXE、iSCSI、および HTTP の起動設定を変更できます。ネットワーク設定オプションは UEFI モードでのみ使用できます。

 **メモ:** BIOS モードでは、BIOS はネットワーク設定を制御しません。BIOS 起動モードの場合は、ネットワークコントローラーのオプションの起動 ROM でネットワーク設定を処理します。


## ネットワーク設定の表示

**Network Settings** (ネットワーク設定) 画面を表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

 **メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システムセットアップメインメニュー画面で、システム BIOS をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Network Settings** (ネットワーク設定) をクリックします。

## ネットワーク設定画面の詳細

**Network Settings** (ネットワーク設定) 画面の詳細は、次のとおりです。

### このタスクについて

オプション	説明
PXE デバイス n (n は 1~4)	デバイスを有効または無効にします。有効にすると、デバイスの UEFI PXE 起動オプションが作成されます。
PXE デバイス n 設定 (n は 1~4)	PXE デバイスの設定を制御できます。
HTTP デバイス n (n は 1~4)	デバイスを有効または無効にします。有効にすると、デバイスの UEFI HTTP 起動オプションが作成されます。

オプション	説明
HTTP デバイス n 設定 (n は 1~4)	HTTP デバイスの設定を制御できます。
UEFI iSCSI 設定	iSCSI デバイスの設定を制御できます。

表 1. UEFI iSCSI 設定画面の詳細

オプション	説明
iSCSI Initiator Name	iSCSI イニシエータの名前を IQN 形式で指定します。
iSCSI Device1	iSCSI デバイスを有効または無効にします。有効の場合は、iSCSI デバイスに UEFI 起動オプションが自動的に作成されます。これはデフォルトでは有効に設定されています。
iSCSI Device1 Settings	iSCSI デバイスの設定を制御できます。

## 内蔵デバイス

**Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面を使用して、ビデオコントローラ、内蔵 RAID コントローラ、および USB ポートを含むすべての内蔵デバイスの設定を表示し設定することができます。

## 内蔵デバイスの表示

**Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**i** **メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、システム BIOS をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Integrated Devices** (内蔵デバイス) をクリックします。

## 内蔵デバイスの詳細

このタスクについて

**Integrated Devices** 画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
<b>User Accessible USB Ports</b>	<p>ユーザー アクセス可能 USB ポートを設定します。<b>Only Back Ports On</b> を選択すると、前面の USB ポートが無効になります。<b>All Ports Off</b> を選択すると、前面と背面のすべての USB ポートが無効になります。</p> <p>USB キーボードとマウスは、選択に応じて起動プロセス中も、特定の USB ポートで機能します。起動プロセスの完了後、設定に応じて USB ポートは有効または無効になります。</p> <p><b>i</b> <b>メモ:</b> <b>Only Back Ports On</b> および <b>All Ports Off</b> を選択すると USB 管理ポートが無効になり、iDRAC 機能へのアクセスも制限されます。</p>
<b>Internal USB Port</b>	<p>内蔵 USB ポートを有効または無効にします。このオプションは <b>On</b> または <b>Off</b> に設定されています。デフォルトでは、このオプションは <b>On</b> に設定されています。</p>

## オプション

## 説明

### iDRAC Direct USB Port

iDRAC ダイレクト USB ポートは iDRAC によってのみ管理され、ホストからは見えません。このオプションは **On** または **OFF** に設定されています。 **OFF** に設定されている場合、iDRAC はこの管理対象ポートに取り付けられた USB デバイスを検出しません。デフォルトでは、このオプションは **On** に設定されています。

### Embedded NIC1 and NIC2

**メモ:** 組み込み NIC1 および NIC2 オプションは、**内蔵ネットワークカード 1** がないシステムでのみ使用できます。

組み込み NIC1 および NIC2 オプションを有効または無効にします。 **Disabled** に設定されている場合、組み込み管理コントローラによって、NIC は共有ネットワークアクセス用に引き続き使用可能となっている可能性があります。組み込み NIC1 および NIC2 オプションはネットワーク ドーターカード (NDC) がないシステムでのみご利用いただけます。組み込み NIC1 および NIC2 オプションは、内蔵ネットワークカード 1 オプションと同時に指定することはできません。システムの NIC 管理ユーティリティを使用して、組み込み NIC1 および NIC2 オプションを設定します。

### I/OAT DMA Engine

I/O 高速化テクノロジー (I/OAT) オプションを有効または無効にします。I/OAT は、ネットワークトラフィックを高速化しながら CPU の利用率を低減するように設計された DMA 機能セットです。ハードウェアとソフトウェアがこの機能をサポートする場合にのみ有効にできます。

### 組み込みビデオコントローラ

組み込みビデオコントローラをプライマリディスプレイとして有効または無効にします。 **有効** に設定すると、アドイングラフィックカードが取り付けられている場合でも、組み込みビデオコントローラがプライマリディスプレイになります。 **Disabled** に設定すると、アドインのグラフィックスカードがプライマリディスプレイとして使用されます。POST 中および起動前環境において、BIOS はプライマリアドインビデオと組み込みビデオの両方にディスプレイを出力します。組み込みビデオは、オペレーティングシステムの起動直前に無効化されます。このオプションは、デフォルトで **有効** に設定されています。

**メモ:** 複数のグラフィックカードがシステムに取り付けられている場合、PCI の列挙中に検出された最初のカードがプライマリビデオとして選択されます。どのカードをプライマリビデオにするかを制御するには、スロット内のカードの並べ替えが必要な場合があります。

### Current State of Embedded Video Controller

組み込みビデオコントローラの現在の状態を表示します。 **Current State of Embedded Video Controller** オプションは、読み取り専用フィールドです。組み込みビデオコントローラがシステム内で唯一の表示機能である (つまり、アドイングラフィックスカードが取り付けられていない) 場合、 **Embedded Video Controller** 設定が **Enabled** となっても、組み込みビデオコントローラが自動的にプライマリディスプレイとして使用されます。

### OS Watchdog Timer

システムが応答を停止した場合、このウォッチドッグタイマーはオペレーティングシステムのリカバリに便利です。このオプションが **Enabled** に設定されている場合、オペレーティングシステムはタイマーを初期化します。このオプションが **Disabled** に設定されている場合 (デフォルト)、タイマーはシステムに何ら影響しません。

### 4 GB を超える I/O のメモリーマップ化

大容量メモリーを必要とする PCIe デバイスのサポートを有効または無効にします。このオプションは、64 ビットのオペレーティングシステムに対してのみ有効にします。このオプションは、デフォルトで **有効** に設定されています。

### スロットの無効化

お使いのシステムで利用可能な PCIe スロットを有効または無効にします。スロット無効化機能により、指定のスロットに取り付けられている PCIe カードの構成が管理されます。スロットを無効にするのは、取り付けられている周辺機器カードがオペレーティングシステムの起動を妨げたり、システム起動に遅延を生じさせたりしている場合に限らなければなりません。スロットが無効になると、Option ROM と UEFI ドライバーの両方が無効になります。システムに存在するスロットのみが制御の対象になります。

表 2. スロットの無効化

オプション	説明
スロット 1	有効または無効にします。PCIe スロット 1 については、起動ドライバーのみ無効になります。このオプションは、デフォルトで <b>有効</b> に設定されています。
スロット 2	有効または無効にします。PCIe スロット 2 については、起動ドライバーのみ無効になります。このオプションは、デフォルトで <b>有効</b> に設定されています。

表 2. スロットの無効化 ( 続き )

オプション	説明
スロット 3	有効または無効にします。PCIe スロット 3 については、起動ドライバーのみ無効になります。このオプションは、デフォルトで <b>有効</b> に設定されています。
スロット 4	有効または無効にします。PCIe スロット 4 については、起動ドライバーのみ無効になります。このオプションは、デフォルトで <b>有効</b> に設定されています。

## シリアル通信

**Serial Communication** ( シリアル通信 ) 画面を使用して、シリアル通信ポートのプロパティを表示します。

### シリアル通信の表示

**Serial Communication** ( シリアル通信 ) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

#### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**① メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、システム BIOS をクリックします。
4. **System BIOS** ( システム BIOS ) 画面で **Serial Communication** ( シリアル通信 ) をクリックします。

### シリアル通信の詳細

#### このタスクについて

シリアル通信画面の詳細は、次のとおりです。

#### オプション 説明

##### シリアル通信

BIOS でシリアル通信デバイス ( シリアルデバイス 1 およびシリアルデバイス 2 ) を選択します。BIOS コンソールリダイレクトを有効にして、ポートアドレスを指定できます。このオプションは、デフォルトで **Auto** ( 自動 ) に設定されています。

##### シリアルポートアドレス

シリアルデバイスのポートアドレスを設定することができます。このフィールドは、シリアルポートアドレスを COM1 または COM2 ( COM1=0x3F8、COM2=0x2F8 ) に設定します。デフォルトでは、このオプションは、シリアル デバイス 1=**COM2**、またはシリアル デバイス 2=**COM1** に設定されます。

**① メモ:** シリアルオーバー LAN ( SOL ) 機能にはシリアルデバイス 2 のみ使用できます。SOL でコンソールのリダイレクトを使用するには、コンソールのリダイレクトとシリアルデバイスに同じポートアドレスを設定します。

**① メモ:** システムを起動するたびに、BIOS は iDRAC で保存された設定でシリアル MUX を同期します。シリアル MUX 設定は、iDRAC で個別に変更できます。したがって、BIOS セットアップユーティリティが

## オプション

## 説明

ら BIOS のデフォルト設定をロードしても、シリアル MUX の設定がシリアルデバイス 1 のデフォルト設定に戻らない場合があります。

### 外付けシリアルコネクタ

このオプションを使用して、External Serial Connector (外付けシリアルコネクタ) を **Serial Device 1** (シリアルデバイス 1)、**Serial Device 2** (シリアルデバイス 2)、または **Remote Access Device** (リモートアクセスデバイス) に関連付けることができます。このオプションは、デフォルトで **Serial Device 1** (シリアルデバイス 1) に設定されています。

**メモ:** SOL には Serial Device 2 (シリアルデバイス 2) のみ使用できます。SOL でコンソールのリダイレクトを使用するには、コンソールのリダイレクトとシリアルデバイスに同じポートアドレスを設定します。

**メモ:** システムを起動するたびに、BIOS は iDRAC で保存された設定でシリアル MUX を同期します。シリアル MUX 設定は、iDRAC で個別に変更できます。したがって、BIOS セットアップユーティリティから BIOS のデフォルト設定をロードしても、この設定がシリアルデバイス 1 のデフォルト設定に戻らない場合があります。

### フェイルセーフポーレート

コンソールのリダイレクトに使用されているフェイルセーフポーレートが表示されます。BIOS は自動的にポーレートの決定を試みます。このフェイルセーフポーレートは、その試みが失敗した場合にのみ使用されません。また、値は変更しないでください。デフォルトでは、このオプションは **115200** に設定されています。

### リモートターミナルタイプ

リモートコンソールターミナルのタイプを設定します。このオプションは、デフォルトで **ANSI VT100/VT220** に設定されています。

### 起動後のリダイレクト

OS のロード時に BIOS コンソールのリダイレクトの有効または無効を切り替えることができます。このオプションは、デフォルトで **Enabled** に設定されています。

## システムプロファイル設定

**System Profile Settings** (システムプロファイル設定) 画面を使用して、電源管理などの特定のシステムパフォーマンス設定を有効にできます。

## システムプロファイル設定の表示

**System Profile Settings** (システムプロファイル設定) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、**システム BIOS** をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**System Profile Settings** (システムプロファイル設定) をクリックします。

## システムプロファイル設定の詳細

### このタスクについて

**System Profile Settings** (システムプロファイル設定) 画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
システムプロファイル	システムプロファイルを設定します。System Profile (システムプロファイル) オプションを <b>Custom</b> (カスタム) 以外のモードに設定すると、BIOS が残りのオプションを自動的に設定します。モードを <b>Custom</b> (カスタム) に設定している場合に限り、残りのオプションを変更できます。このオプションは、デフォルトで <b>ワットあたりのパフォーマンス (OS)</b> に設定されています。 <b>メモ:</b> システムプロファイル設定画面のすべてのパラメーターは、システムプロファイルオプションが <b>Custom</b> に設定されている場合のみ使用可能です。
CPU 電力の管理	CPU 電力の管理を設定します。このオプションはデフォルトで <b>OS DBPM</b> に設定されています。
メモリ周波数	システムメモリの速度を設定します。 <b>最大パフォーマンス</b> 、 <b>最大信頼度</b> 、または特定の速度を選択することができます。デフォルトでは、このオプションは <b>Maximum Performance</b> (最大パフォーマンス) に設定されています。
ターボブースト	プロセッサがターボブーストモードで動作するかどうかを設定できます。このオプションは、デフォルトで <b>Enabled</b> に設定されています。
C1E	アイドル時にプロセッサが最小パフォーマンス状態に切り替わるかどうかを設定できます。このオプションは、デフォルトで <b>Enabled</b> に設定されています。
C States	プロセッサが利用可能なすべての電源状態で動作するかどうかを設定できます。このオプションは、デフォルトで <b>Enabled</b> に設定されています。
メモリリフレッシュレート	メモリリフレッシュレートを 1x または 2x に設定します。このオプションは、デフォルトで <b>1x</b> に設定されています。
Uncore Frequency	<b>Processor Uncore Frequency</b> (プロセッサアンコア周波数) オプションを選択することが可能になります。 <b>Dynamic mode (動的モード)</b> では、プロセッサの実行時のコアおよびアンコアの全体に渡って電源リソースを最適化できます。電力を節約、またはパフォーマンスを最適化するためのアンコア周波数の最適化は、 <b>Energy Efficiency Policy</b> (省エネルギーポリシー) の設定の影響を受けます。
プロセッサ 1 のターボブースト対応コアの数	<b>メモ:</b> システムに取り付けられているプロセッサが 2 台ある場合は、 <b>Number of Turbo Boost Enabled Cores for Processor 2</b> (プロセッサ 2 のターボブースト有効コア数) のエントリが表示されます。 プロセッサ 1 のターボブースト対応コア数を制御します。コアの最大数がデフォルトで有効にします。
Monitor/Mwait	プロセッサ内の Monitor/Mwait 命令を有効にします。このオプションがに設定が <b>有効</b> の場合は、すべてのシステムプロファイルを除き、[ <b>カスタム デフォルト</b> ]。 <b>メモ:</b> このオプションは、 <b>Custom</b> (カスタム) モードの <b>C States</b> オプションが <b>Disabled</b> (無効) に設定されている場合に限り、無効に設定できます。 <b>メモ:</b> <b>Custom</b> (カスタム) モードで <b>C States</b> が <b>Enabled</b> (有効) に設定されている場合に、Monitor/Mwait 設定を変更しても、システムの電力またはパフォーマンスは影響を受けません。
PCI ASPM L1 Link Power Management	PCI ASPM L1 Link Power Management を有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで <b>Enabled</b> に設定されています。

## システムセキュリティ

**System Security** (システムセキュリティ) 画面を使用して、システムパスワードとセットアップパスワードの設定や、電源ボタンの無効化などの特定の機能を実行できます。

## システムセキュリティの表示


**System Security** (システムセキュリティ) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup




 **メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、システム BIOS をクリックします。
4. System BIOS (システム BIOS) 画面で System Security (システムセキュリティ) をクリックします。

## システムセキュリティ設定の詳細

このタスクについて

システムセキュリティ設定画面の詳細は次の通りです。

オプション	説明
CPU AES-NI	Advanced Encryption Standard Instruction Set (AES-NI) を使用して暗号化および復号を行うことによって、アプリケーションのスピードを向上させます。このオプションは、デフォルトで <b>有効</b> に設定されています。
System Password	システムパスワードを設定します。このオプションは、デフォルトで <b>Enabled</b> に設定されており、システムにパスワードジャンプが取り付けられていない場合は、読み取り専用になります。
Setup Password	セットアップパスワードを設定します。システムにパスワードジャンプが取り付けられていない場合、このオプションは読み取り専用です。
Password Status	システムパスワードをロックします。デフォルトでは、このオプションは <b>Unlocked</b> に設定されています。
TPM Security	 <b>メモ:</b> TPM メニューは、TPM モジュールがインストールされている場合のみ使用可能です。  TPM の報告モードを制御することができます。デフォルトでは、 <b>TPM Security</b> オプションは <b>Off</b> に設定されています。変更できるのは、[ TPM Status ] と、[ TPM Activation ] ( <b>TPM Status</b> フィールドが <b>On with Pre-boot Measurements</b> または <b>On without Pre-boot Measurements</b> のいずれかに設定されている場合 ) に限られます。
TPM Information	TPM の動作状態を変更することができます。このオプションは、デフォルトで <b>No Change</b> に設定されています。
TPM Status	TPM ステータスを指定します。
TPM Command	Trusted Platform Module (TPM) を制御します。 <b>None</b> に設定すると、どのコマンドも TPM に送信されません。 <b>Activate</b> に設定すると、TPM は有効かつアクティブになります。 <b>Deactivate</b> に設定すると、TPM は無効かつ非アクティブになります。 <b>Clear</b> に設定すると、TPM のすべてのプロパティがクリアされます。デフォルトでは、このオプションは <b>None</b> に設定されています。  <b>注意:</b> TPM をクリアすると、TPM 内のすべてのキーが失われます。TPM キーが失われると、オペレーティングシステムの起動に影響するおそれがあります。  「TPM セキュリティ」が「オフ」に設定されている場合、このフィールドは読み取り専用になります。このアクションの結果を有効にするには、再起動が必要になります。
Intel(R) TXT	Intel Trusted Execution Technology (TXT) オプションを有効または無効にします。 <b>Intel TXT</b> オプションを有効にするには、仮想化テクノロジーと TPM セキュリティを起動前測定ありで有効にする必要があります。このオプションは、デフォルトで <b>Off</b> に設定されています。  TPM 2.0 がインストールされている場合、 <b>TPM 2 アルゴリズム</b> のオプションが利用できます。これには、TPM (SHA1、SHA256) でサポートされてハッシュアルゴリズムを選択できます。 <b>TPM 2 アルゴリズム</b> のオプションを必要に設定するには、 <b>SHA256</b> 、TXT を有効にします。
Intel(R) SGX	インテル ソフトウェア ガード エクステンションズ (SGX) のオプションを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで <b>Software</b> に設定されています。  <b>メモ:</b> SGX メニューは、SGX 対応のプロセッサがインストールされている場合のみ使用可能です。
SGX Launch Control Policy	ソフトウェア ガード エクステンションズ (SGX) テクノロジーのローンチ コントロール ポリシー (LCP) を制御できます。デフォルトでは、このオプションは <b>Unlocked</b> に設定されています。
Power Button	システム前面の電源ボタンを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで <b>有効</b> に設定されています。
AC Power Recovery	AC 電源が回復した後のシステムの動作を設定します。このオプションは、デフォルトで <b>前回</b> に設定されています。

オプション	説明								
<b>AC Power Recovery Delay</b>	AC 電源が回復した後のシステムへの電源投入の時間遅延を設定します。デフォルトでは、このオプションはオンに設定されています。								
<b>User Defined Delay (60 s to 240 s)</b>	<b>AC Power Recovery Delay</b> (AC 電源リカバリー遅延) に <b>User Defined</b> (ユーザー定義) オプションが選択されている場合、 <b>User Defined Delay</b> (ユーザー定義の遅延) オプションを設定します。								
<b>UEFI Variable Access</b>	UEFI 変数を安全に維持するためのさまざまな手段を提供します。標準 (デフォルト) に設定されている場合、UEFI 変数は UEFI 仕様によってオペレーティングシステムでアクセス可能です。 <b>Controlled</b> に設定されている場合、選択した UEFI 変数は環境内で保護され、新しい UEFI 起動エントリは、現在の起動順序の最後に実行されます。								
<b>インバンド管理機能インターフェイス</b>	<p>ときに設定を無効にすると、この設定は、Management Engine の (ME)、HECI デバイスは、およびシステムのオペレーティングシステムから IPMI デバイスを非表示にします。これにより、ME の電源上限が設定を変更するには、オペレーティングシステム、および防止します。すべてのインバンド管理ツールへのアクセスをブロックすべての管理を介して帯域外になります。このオプションは、デフォルトで有効に設定されています。</p> <p><b>メモ:</b> BIOS アップデートの HECI デバイスで動作可能と DUP アップデート IPMI インターフェイスを操作可能にする必要があります。この設定をする必要がセットになっている エラーのアップデートを避けてください。</p>								
<b>Secure Boot</b>	セキュア ブートを有効にします。ここでは BIOS はセキュア ブート ポリシーの証明書を使用して各プリブートイメージを認証します。セキュア ブートはデフォルトで無効になっています。セキュア ブート ポリシーはデフォルトで標準に設定されています。								
<b>Secure Boot Policy</b>	セキュア ブート ポリシーが <b>Standard</b> (標準) に設定されている場合、BIOS はシステムの製造元のキーと証明書を使用して起動前イメージを認証します。セキュア ブートポリシーが <b>カスタム</b> に設定されている場合、BIOS はユーザー定義のキーおよび証明書を使用します。セキュア ブートポリシーはデフォルトで標準に設定されています。								
<b>Secure Boot Mode</b>	<p>BIOS がセキュア ブート ポリシーオブジェクト (PK、KEK、db、dbx) を使う方法を設定します。</p> <p>現在のモードが <b>展開モード</b> に設定されている場合、設定可能なオプションは <b>ユーザーモード</b> と <b>展開モード</b> です。現在のモードが <b>ユーザーモード</b> に設定されている場合、設定可能なオプションは <b>ユーザーモード</b>、<b>監査モード</b>、<b>展開モード</b> です。</p>								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>User Mode</b></td> <td> <p><b>ユーザーモード</b>では、PK、取り付け、および BIOS を使ったプログラムのポリシーオブジェクトをアップデートしようとする署名の検証を実行している必要があります。</p> <p>BIOS では、未認証のプログラムによるモード間の遷移が許可されます。</p> </td> </tr> <tr> <td><b>Audit Mode</b></td> <td> <p><b>監査モード</b>では、PK は存在しません。BIOS は、ポリシーオブジェクトのプログラムによるアップデートおよびモード間の遷移を認証しません。</p> <p><b>監査モード</b>は、ポリシーオブジェクトのワーキングセットをプログラムによって決定する際に役立ちます。</p> <p>BIOS イメージを実行情報テーブルで、プレブートイメージおよびログの結果の署名の検証を実行していますが、パススルーまたは検証が失敗したかどうか、イメージを実行します。</p> </td> </tr> <tr> <td><b>展開モード</b></td> <td> <p><b>展開モード</b>は最も安全なモードです。<b>展開されたモード</b>では、PK にインストールすると、BIOS プログラム的ポリシーオブジェクトをアップデートしようとします上の署名の検証を実行している必要があります。</p> <p><b>展開されたモード</b>は、プログラムによるモードの移行を制限します。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	<b>User Mode</b>	<p><b>ユーザーモード</b>では、PK、取り付け、および BIOS を使ったプログラムのポリシーオブジェクトをアップデートしようとする署名の検証を実行している必要があります。</p> <p>BIOS では、未認証のプログラムによるモード間の遷移が許可されます。</p>	<b>Audit Mode</b>	<p><b>監査モード</b>では、PK は存在しません。BIOS は、ポリシーオブジェクトのプログラムによるアップデートおよびモード間の遷移を認証しません。</p> <p><b>監査モード</b>は、ポリシーオブジェクトのワーキングセットをプログラムによって決定する際に役立ちます。</p> <p>BIOS イメージを実行情報テーブルで、プレブートイメージおよびログの結果の署名の検証を実行していますが、パススルーまたは検証が失敗したかどうか、イメージを実行します。</p>	<b>展開モード</b>	<p><b>展開モード</b>は最も安全なモードです。<b>展開されたモード</b>では、PK にインストールすると、BIOS プログラム的ポリシーオブジェクトをアップデートしようとします上の署名の検証を実行している必要があります。</p> <p><b>展開されたモード</b>は、プログラムによるモードの移行を制限します。</p>
オプション	説明								
<b>User Mode</b>	<p><b>ユーザーモード</b>では、PK、取り付け、および BIOS を使ったプログラムのポリシーオブジェクトをアップデートしようとする署名の検証を実行している必要があります。</p> <p>BIOS では、未認証のプログラムによるモード間の遷移が許可されます。</p>								
<b>Audit Mode</b>	<p><b>監査モード</b>では、PK は存在しません。BIOS は、ポリシーオブジェクトのプログラムによるアップデートおよびモード間の遷移を認証しません。</p> <p><b>監査モード</b>は、ポリシーオブジェクトのワーキングセットをプログラムによって決定する際に役立ちます。</p> <p>BIOS イメージを実行情報テーブルで、プレブートイメージおよびログの結果の署名の検証を実行していますが、パススルーまたは検証が失敗したかどうか、イメージを実行します。</p>								
<b>展開モード</b>	<p><b>展開モード</b>は最も安全なモードです。<b>展開されたモード</b>では、PK にインストールすると、BIOS プログラム的ポリシーオブジェクトをアップデートしようとします上の署名の検証を実行している必要があります。</p> <p><b>展開されたモード</b>は、プログラムによるモードの移行を制限します。</p>								
<b>Secure Boot Policy Summary</b>	イメージを認証するためにセキュア ブートが使用する証明書とハッシュのリストを指定します。								
<b>セキュア ブートカスタムポリシーの設定</b>	セキュア ブート カスタムポリシーを設定します。このオプションを有効にするには、セキュア ブート ポリシーを <b>Custom</b> (カスタム) に設定してください。								

## システムパスワードおよびセットアップパスワードの作成

### 前提条件

パスワードジャンパが有効になっていることを確認します。パスワードジャンパによって、システムパスワードとセットアップパスワードの機能の有効/無効を切り替えることができます。詳細については、「システム基板ジャンパの設定」の項を参照してください。

**メモ:** パスワードジャンパの設定を無効にすると、既存のシステムパスワードとセットアップパスワードは削除され、システムの起動にシステムパスワードを入力する必要がなくなります。

### 手順

1. システムセットアップを起動するには、システムの電源投入または再起動の直後に F2 を押します。
2. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS (システム BIOS) System Security** (システムセキュリティ) の順にクリックします。
3. **System Security** (システムセキュリティ) 画面で、**Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) に設定されていることを確認します。
4. システムパスワードフィールドに、システムパスワードを入力して、Enter または Tab を押します。  
以下のガイドラインに従ってシステムパスワードを設定します。

- パスワードの文字数は 32 文字までです。
- 0 から 9 までの数字を含めることができます。
- 特殊文字は、次の文字のみが利用可能です: スペース、( )、( + )、( , )、( - )、( . )、( / )、( ; )、( [ ]、( \ )、( )、( ` )

システムパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。

5. システムパスワードをもう一度入力し、**OK** をクリックします。
6. **Setup Password** (セットアップパスワード) フィールドに、セットアップパスワードを入力して、Enter または Tab を押します。  
セットアップパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。
7. セットアップパスワードをもう一度入力し、**OK** をクリックします。
8. Esc を押してシステム BIOS 画面に戻ります。もう一度 Esc を押します。  
変更の保存を求めるプロンプトが表示されます。

**メモ:** システムが再起動するまでパスワード保護機能は有効になりません。

## システムを保護するためのシステムパスワードの使い方

### このタスクについて

セットアップパスワードが割り当てられている場合、システムはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け入れます。

### 手順

1. システムの電源を入れるかまたは再起動します。
2. システムパスワードを入力し、Enter を押します。

### 次の手順

パスワードステータスがロックに設定されている場合は、再起動時に画面の指示に従ってシステムパスワードを入力し、Enter を押します。

**メモ:** 間違ったシステムパスワードが入力されると、メッセージが表示され、パスワードの再入力が必要です。パスワードの入力は 3 回試行できます。3 回目の入力がエラーになると、システムは機能を停止して電源を切る必要があるというエラーメッセージがシステムによって表示されます。システムをシャットダウンして再起動しても、正しいパスワードを入力するまで、このエラーメッセージが表示されます。

## システムおよびセットアップパスワードの削除または変更

### 前提条件

- ①** **メモ:** Password Status (パスワードステータス) が **Locked** (ロック) に設定されている場合、既存のシステムパスワードまたはセットアップパスワードを削除または変更することはできません。

### 手順

1. セットアップユーティリティを起動するには、システムの電源投入または再起動の直後に F2 を押します。
2. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) > **System Security** (システムセキュリティ) の順にクリックします。
3. **System Security** (システムセキュリティ) 画面で **Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) に設定されていることを確認します。
4. システムパスワードフィールドで、既存のシステムパスワードを変更または削除して、Enter または Tab を押します。
5. **Setup Password** (セットアップパスワード) フィールドで、既存のシステムパスワードを変更または削除して、Enter または Tab を押します。

**①** **メモ:** システムパスワードまたはセットアップパスワードを変更する場合は、新しいパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。システムパスワードまたはセットアップパスワードを削除する場合は、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
6. Esc を押してシステム BIOS 画面に戻ります。もう一度 Esc を押すと、変更の保存を求めるプロンプトが表示されます。
7. **セットアップパスワード** を選択し、既存のセットアップパスワードを変更または削除して、Enter または Tab を押します。

**①** **メモ:** システムパスワードまたはセットアップパスワードを変更する場合は、新しいパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。システムパスワードまたはセットアップパスワードを削除する場合は、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

## セットアップパスワード使用中の操作

セットアップパスワードが**有効**に設定されている場合は、システムセットアップオプションを変更する前に正しいセットアップパスワードを入力します。

誤ったパスワードを3回入力した場合は、システムに次のメッセージが表示されます。

```
Invalid Password! Number of unsuccessful password attempts: <x> System Halted! Must power down.
```

```
Password Invalid. Number of unsuccessful password attempts: <x> Maximum number of password attempts exceeded. System halted.
```

システムをオフにして再起動しても、正しいパスワードを入力するまで、このエラーメッセージが表示されます。次のオプションがサポートされています。

- システムパスワードが**有効**に設定されておらず、**パスワードステータス**オプションでロックされていない場合は、システムパスワードを設定できます。詳細については、「システムセキュリティ設定の画面」の項を参照してください。
- 既存のシステムパスワードは、無効にすることも変更することもできません。

- ①** **メモ:** 不正な変更からシステムパスワードを保護するため、パスワードステータスオプションをセットアップパスワードオプションと併用することができます。

## 冗長 OS 制御

**Redundant OS Control** 画面では、冗長 OS 情報を設定することができます。これにより、システムで物理リカバリディスクをセットアップすることができます。

## 冗長 OS 制御の表示

Redundant OS Control 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、システム BIOS をクリックします。
4. System BIOS 画面で、Redundant OS Control をクリックします。

## Redundant OS Control 画面の詳細

Redundant OS Control 画面の詳細は、次のとおりです。

このタスクについて

オプション	説明
冗長 OS の場所	次のデバイスからバックアップ ディスクを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>なし</li><li>IDSDM</li><li>SATA Ports in AHCI mode</li><li>BOSS PCIe Cards ( Internal M.2 Drives )</li><li>内蔵 USB</li></ul> <p><b>メモ:</b> RAID 構成と NVMe カードは含まれません。これらの構成で個々のドライブを区別する機能が BIOS にはないためです。</p>
冗長 OS の状態	<p><b>メモ:</b> このオプションは、Redundant OS Location が None に設定されている場合は、無効になります。</p> <p>Visible に設定すると、バックアップ ディスクがブート リストと OS で認識されます。Hidden に設定すると、バックアップ ディスクは無効になり、ブート リストと OS で認識されません。このオプションは、デフォルトで Visible に設定されています。</p> <p><b>メモ:</b> BIOS がハードウェアのデバイスを無効にするため、OS からデバイスにアクセスできません。</p>
冗長 OS 起動	<p><b>メモ:</b> このオプションは、Redundant OS Location が None に設定されている場合、または Redundant OS State が Hidden に設定されている場合は、無効になります。</p> <p>Enabled に設定すると、BIOS は Redundant OS Location に指定されているデバイスを起動します。Disabled に設定すると、BIOS は現在のブート リストの設定を保持します。このオプションは、デフォルトで無効に設定されています。</p>

## その他の設定

Miscellaneous Settings ( その他の設定 ) 画面を使用して、Asset Tag の更新やシステムの日付と時刻の変更などの特定の機能を実行できます。

## その他の設定の表示

Miscellaneous Settings ( その他の設定 ) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

## 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

**メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. システム セットアップ メイン メニュー画面で、システム BIOS をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Miscellaneous Settings** (その他の設定) をクリックします。

## その他の設定の詳細

このタスクについて

**Miscellaneous Settings** (その他の設定) 画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
システム時刻	システムの時刻を設定することができます。
システム日付	システムの日付を設定することができます。
資産タグ	資産タグを指定して、セキュリティと追跡のために変更することができます。
キーボード NumLock	NumLock が有効または無効のどちらの状態でもシステムが起動するかを設定できます。デフォルトでは、このオプションは <b>On</b> (オン) に設定されています。 <b>メモ:</b> このフィールドは 84 キーのキーボードには適用されません。
エラー時 F1/F2 プロンプト	エラー時の F1/F2 プロンプトを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで <b>Enabled</b> に設定されています。F1/F2 プロンプトは、キーボードエラーも含まれます。
レガシービデオオプション ROM のロード	システム BIOS でビデオコントローラからレガシービデオ (INT 10H) オプション ROM をロードするかどうかを決定できます。オペレーティングシステムで <b>Enabled</b> (有効) を選択すると、UEFI ビデオ出力標準をサポートしません。このフィールドは UEFI 起動モードでのみ有効です。 <b>UEFI Secure Boot</b> (UEFI セキュアブート) モードが <b>Enabled</b> (有効) の場合は、このオプションを有効に設定できません。このオプションは、デフォルトで <b>Disabled</b> (無効) に設定されています。
Dell Wyse P25/P45 BIOS Access	Dell Wyse P25 / P45 BIOS Access を有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで <b>Enabled</b> に設定されています。
電源サイクルリクエスト	電源サイクルリクエストを有効または無効にします。デフォルトでは、このオプションは <b>オン</b> に設定されています。

## iDRAC 設定ユーティリティ

iDRAC 設定ユーティリティは、UEFI を使用して iDRAC パラメーターをセットアップおよび設定するためのインターフェイスです。iDRAC 設定ユーティリティを使用することで、さまざまな iDRAC パラメーターを有効または無効にすることができます。

**メモ:** 一部の iDRAC 設定ユーティリティ機能へのアクセスには、iDRAC Enterprise ライセンスのアップグレードが必要です。

iDRAC 使用の詳細については、で『*Dell Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド*』を参照してください。

## デバイス設定

**Device Settings** では、以下のデバイスパラメータを設定することができます。

- コントローラ構成のユーティリティ
- 組み込み NIC Port1-X の構成
- SlotX の NIC、Port1-X の構成
- BOSS カードの構成

# Dell Lifecycle Controller

Dell Lifecycle Controller (LC) は、システムの導入、構成、更新、保守、診断などの高度な組み込み型システム管理機能を提供します。LC は、iDRAC 帯域外ソリューションおよび Dell 製システム内蔵 Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) アプリケーションの一部として提供されます。

## 組み込み型システム管理

Dell Lifecycle Controller により、システムのライフサイクル全体にわたって高度な組み込みシステム管理が提供されます。Dell Lifecycle Controller はブートシーケンス中に開始でき、オペレーティングシステムに依存せずに動作することができます。

**メモ:**一部のプラットフォーム構成では、Dell Lifecycle Controller の提供する機能の一部がサポートされない場合があります。

Dell Lifecycle Controller のセットアップ、ハードウェアとファームウェアの設定、およびオペレーティングシステムの導入の詳細については、Dell Lifecycle Controller のマニュアルを参照してください。

## ブートマネージャー

**Boot Manager** (起動マネージャ) 画面では、起動オプションと診断ユーティリティを選択できます。

## ブートマネージャの表示

このタスクについて

Boot Manager (ブートマネージャ) を起動するには、次の手順を実行してください。

### 手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたら F11 を押します。

F11 = Boot Manager

F11 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

## ブートマネージャのメインメニュー

メニュー項目	説明
<b>Continue Normal Boot</b> (通常の起動を続行)	システムは起動順序の先頭にあるデバイスから順に起動を試みます。起動が失敗すると、システムは起動順序内の次のデバイスから起動を試みます。起動が成功するか、起動オプションがなくなるまで処理は続行されます。
<b>One Shot Boot Menu</b> (ワンショット起動メニュー)	起動メニューにアクセスし、ワнтаイム起動デバイスを選択して、このデバイスから起動できます。
<b>Launch System Setup</b> (セットアップユーティリティの起動)	セットアップユーティリティにアクセスできます。
<b>Launch Lifecycle Controller</b> (Lifecycle Controller の起動)	起動マネージャを終了し、Dell Lifecycle Controller プログラムを起動します。
システムユーティリティ	システム診断および UEFI シェルなどのシステムユーティリティメニューを起動できます。

## ワンショット UEFI 起動メニュー

ワンショット UEFI 起動メニューでは、起動元となる起動デバイスを選択できます。

## システムユーティリティ

**System Utilities** (システムユーティリティ) には、起動可能な次のユーティリティが含まれています。

- 診断プログラムの起動
- BIOS アップデートファイルエクスプローラ
- システムの再起動

## PXE 起動

Preboot Execution Environment (PXE) オプションを使用してネットワーク接続されたシステムをリモートに起動および設定することができます。

**PXE boot** オプションにアクセスするには、BIOS セットアップから標準のブート シーケンスを使用するかわりに、システムを起動してから POST 中に F12 を押します。それによってメニューが表示されたり、ネットワーク デバイスを管理できたりすることはありません。